

チューニングピンを動かして補正していきます。（張力を上げると音が高くなります。張力を下げると、音が下が低くなります）

ゆっくり静かに微調整します。1ミリ2ミリ動かす程度の感覚を覚えましょう。

（真琴の本体の木とチューニングピンの関係を探るような気持ちがあるといいと思います。調律器 道具の使い方。手の使い方の感覚を養いましょう。

微調整のコツですが、電子チューナーのメモリの”0” のメモリ少しを合わせるときは、-20セントほど緩めてから右回しで”0”を狙いますとやりやすいです。弦が切れてしまう心配がなくなります。力の入れすぎで”0”を通り過ぎることもあるでしょうが、感触を覚えていきましょう）

調律器の金具の口は四角形です。調律器はT字型ですので、右手が回しにくい時には調律ハンドルを被せ直すと動かしやすいです。

マイクroフォンは1弦ずつ挟み直さなくても振動を感知しますがメーターの針が振れないようでしたら、挟み直したほうがいいでしょう。

（弦の張替えの直後は音が安定していませんので、気長に丁寧にチューニングして行きましょう♪）

順番

① ド C=528Hzをまず合わせましょう。

②低音のド（基本のド）C=264Hzを合わせてみましょう。

1オクターブの関係で響き合いを確認してください。

（共鳴する2つの音を感じ取り音楽的な耳を養いましょう）

※次に真琴で1056Hzの高音のドのあるモデルは1056Hzのドをあわせましょう。響き合う音を聞き取りましょう♪そして低音の132Hzのドを合わせ共鳴する響きを聞いて確認してください。

（”響きあう音を聞き取る”という観点でドとソの関係は（ドを根音・基準音とするとドとソは）5度の関係といえます。ソをあわせて、ドとソの響きを感じ取りましょう）

③全体を調律したら、音を鳴らして音の並びを聞いてみてください。変だなと思ったら、その個所をまた調べてみます。

●2度以上鳴らして確かめ、修正して、全体の音が正しく整ったら演奏に入ってください♪